

開発教育指導者研修(実践編) 第2回 記録

■ 開催概要

- ◆ 日時 : 平成26年7月19日(土) 13:00~17:00、20(日) 10:00~15:00
- ◆ 場所 : なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆ 参加者数 : [1日目] 受講者41名、JICA3名、NIED4名、オブザーバー2名、合計50名
: [2日目] 受講者41名、JICA5名、NIED4名、オブザーバー2名、合計52名
- ◆ ファシリテーター : (特活) N I E D ・ 国際理解教育センター 伊沢令子さん

■ 第2回のねらい

- ★ 開発教育・国際理解教育は、人権、環境、共生など今日的課題に着目する教育であることを理解する。
 - ① 持続可能なよりよい未来につながるテーマを、自分事として考えるための学び方を学ぶ。
 - ② 「関わる力」の育成に「参加型の学び」がどう役立つのか、体験的に確認する。
 - ③ 「知り・考え・気づき・動く」をつなぐ学びの意義を理解し、自らの教育観をふりかえる。

■ プログラムの内容

● セッション1 「人権について学ぶ 一人権とは何か？」

★ 参加のためのウォーミングアップ

1. 研修全体像と第2回のねらいの確認 13:00-[6]

- ◇ JICA木村職員が開会の挨拶を行った。オブザーバー参加の2名を紹介した。
- ◇ 板書された全4回の流れ及びレジュメを基に、研修全体像及び第2回のねらいについて、ファシリテーターが説明した。

2. アイスブレイキング~2つのわたしどっちがウソ? 13:07-[11]

- ◇ 2つの自己紹介の内容を各自考え、順にグループ内で2つの内容について紹介し、他のメンバーはどちらがウソかを当てた。
- ◇ Fコメント…「本当は4つのわたし1つはウソというアクティビティである。ウソを1つ入れることで、その人への関心が深まる自己紹介である。」



3. 第1回研修のことを思い出そう! 13:18-[27]

- ◇ 第1回研修の記録を各自読み、印象に残ったところに下線を引いた。
- ◇ 印象に残ったところ3カ所とその理由について、グループ内で1人1分30秒間ずつ伝え合った。
- ◇ Fコメント…「言語化することとは意識化することに役立つ。それをグループで行うことで、他の人からも学ぶことができる。」



★大切なわたし、大切なあなた、大切なみんなの人権

4. 「人権」をお題に自己紹介 13:45-[11]

- ◇ 次の2つのことについて、グループ内で伝えあった。呼ばれたい名前の五十音順で。
 - ① 人権と聞いてイメージすること、② 自分が受けた人権教育の中で最も記憶に残っていること

5. 人権教育の目的と内容についてミニレクチャー 13:56-[4]

- ◇ 人権を学ぶ目的と人権教育の内容を、次の板書を基にファシリテーターが説明した。

<人権を学ぶ目的>

- ・人権とは何かを自分のこととして理解し、人権が侵害されている人々の気持ちに共感的になり、自分や他者の人権のために、積極的な行動が取れるようになる。

<人権教育の内容>

- ① 人権とは何かを知る ② 人権侵害とは何かを知る（私たちの社会には人権侵害があることを知る）
- ③ 人権尊重社会とはどのような社会をいうのかビジョンを持つ ④ 人権尊重のスキルを習熟する
- ⑤ 人権を尊重するとは、わたしが何をすることがわかり、人権尊重社会実現のために動き出す！

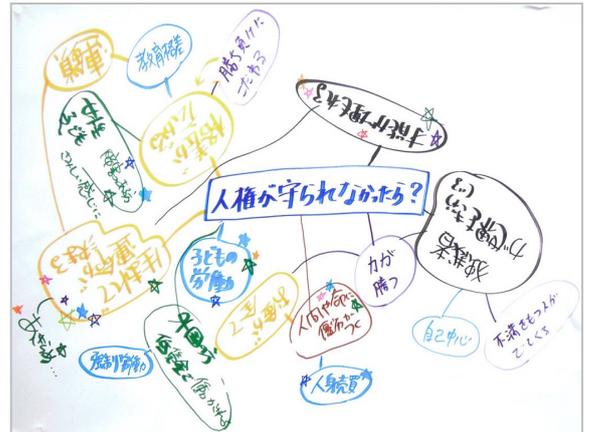
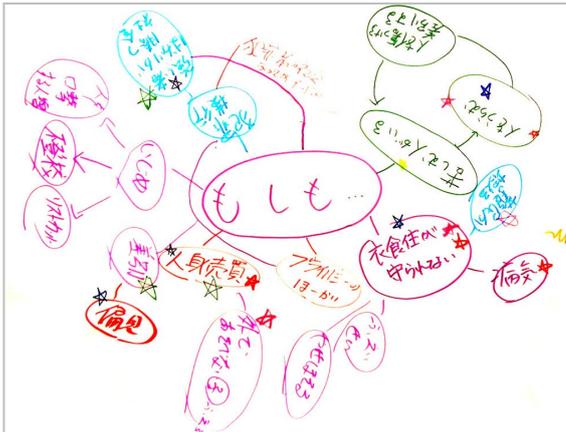
↓
最終的には、学ぶ側の態度・行動が変わること！

6. 人権って何だろう？…①もしも人権が守られなかったら？ 14:00-[12]

- ◇ 人権とは何かを考えるために、逆説的に「もしも人権が守られなかったらどんなことが起こるか」について、グループ内で派生的に考え、模造紙に書き出した。
〔派生図のポイント…①7つ以上に広げる ②3つ以上深める〕
- ◇ 模造紙を回し読みして、他のグループのアイデアを共有した。
- ◇ Fコメント…「人権が守られなかったらを考え書き出せるということは、人権がどんなものであるか理解しているということ。人権というのは“ほしいもの”ではなく、誰にとっても“必要なもの”である。」



【「もしも人権が守られなかったら？」派生図の成果例】



7. 人権って何だろう？…②人権とはどんな権利のことだろう？ 14:12-[40]

- ◇ 自分を十分に豊かに生きさせてくれているものを各自15個考え、1項目1枚の付せん紙に書き出した。
- ◇ グループ内で、付せん紙をカード式整理法（KJ法）で分類・整理し、模造紙にまとめた。

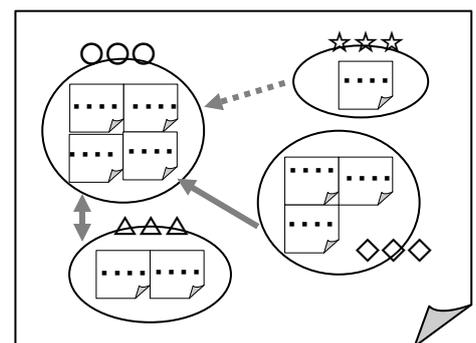


<カード式整理法（KJ法）の進め方>

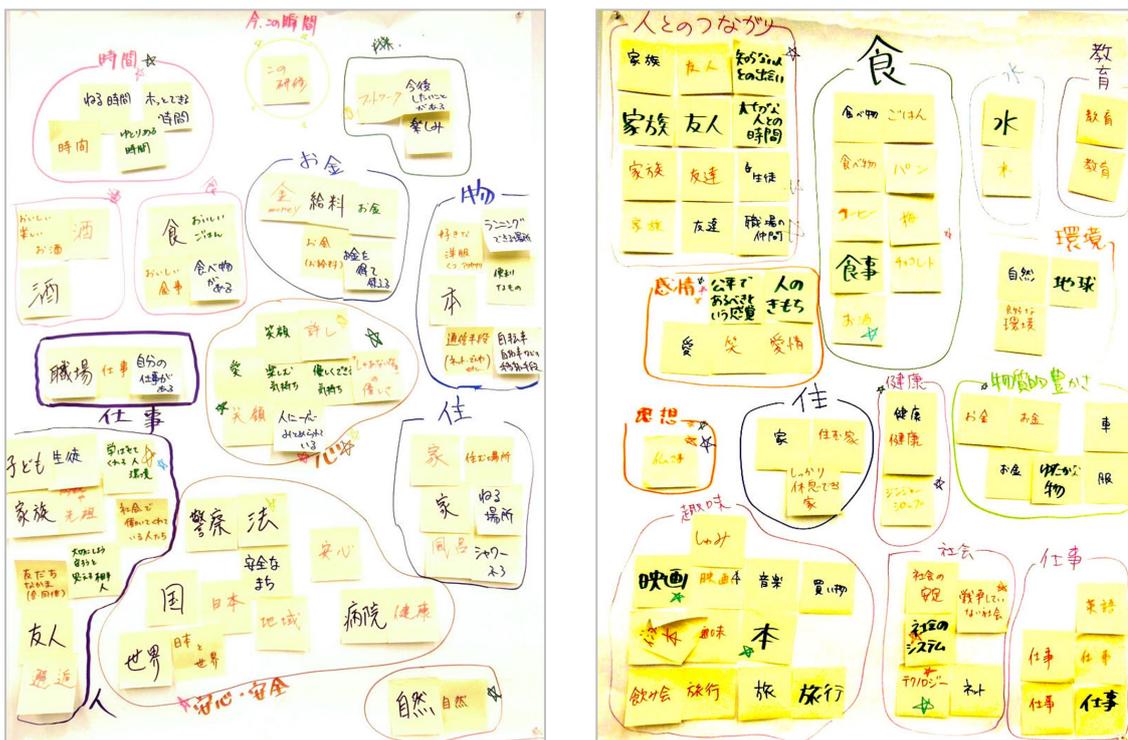
- ① 1人目が付せん紙に書いたことを読み上げ模造紙に貼る。
- ② 同じようなことを書いた人は、並べて貼る。
- ③ 以降、順に読み上げ、同様に並べて貼る作業を全員の付せん紙がなくなるまで行う。
- ④ 同じような付せん紙を線で括り、タイトルを書く。

<まとめるうえでのポイント>

- ・ 付せん紙に書いたことを説明しないが、質問はOK。
- ・ 何でも一緒にせず8～10カテゴリーにする。
- ・ 1人が一気に出してしまわず順番に出しあう。
- ・ 1人で黙々とせずグループ協力して行う。



【「自分を十分に豊かに生きさせてくれているもの」カード式整理法（KJ法）の成果例】



- ◇ 模造紙を回し読みして、他のグループのアイデアを共有した。その際なるほどと思ったカテゴリーに☆印をつけた。
- ◇ グループでまとめたカテゴリーのうち人が自分らしく十分に生きるために誰もが共通に必要なものを選び出し、A4用紙に書き出し、全体で発表した。

【自分らしく十分に生きるために誰もが共通に必要なもの】

家族、友人、健康、平和、教育、衣食住、夢、自由、仕事、趣味、自然、（嘘をつく勇氣と優しさ）
 安心・安全、選択権、時間、愛、精神的な豊かさ（趣味・宗教など）、水、平等、適正な収入、社会保障

8. 人権って何だろう？…③世界人権宣言を読んでみよう！ 14:52-[26]

- ◇ F導入コメント…「人権とは human rights と複数形となっているように数えられる権利である。世界人権宣言は、アウシュビッツを繰り返さないという反省を基に、このワークで行ったように、ほしいもの・個人が必要なものから共通に必要なものを選び決められたものである。世界人権宣言は、宣言なので拘束力はないが、その後様々な条約が作られた。」
- ◇ ペアになり、世界人権宣言の2種類の簡易訳を1人ずつ担当し、1条ずつ交互に読み合わせをした。
- ◇ Fコメント…「世界の人権の標準である世界人権宣言を一度は読んでみるのが大切と考える。今回の2つの資料は子どもたちにもわかるように書かれている。」
- ◇ 基本的人権の内容と人権の歩みについて、次の板書を基にファシリテーターが説明した。



＜世界人権宣言に掲げられた基本的人権＞

- ・衣食住の充実、教育、労働、余暇、文化的生活の質、社会的生活の質

＜人権とは＞

- ・私たちが幸せに生きるための権利で、人種や民族、性別を越えて一人ひとりに備わった共通の権利
- ・人間が人間らしく生きていくために必要な基本的自由と権利の総称
- ・人間らしく生きていくために、社会によって認められた権利で、人間が生存と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利

＜人権の歩み＞

- ・人間の幅を広げてきた歴史で、先人が獲得してきてくれた賜

- ① アウシュビッツを繰り返さない
- ② 開放時代…黒人解放、女性解放、部落解放
- ③ 共生時代…子ども、障害者、高齢者、外国人など

- 休憩 - 15:18-[9]

● セッション2 「人権のために学ぶ 一人権意識と人権尊重スキル」

★人権は守られているか -----

1. グループ替え、一言自己紹介 15:27-[7]

- ◇ じゃんけんで勝った2人、負けた2人が前後のグループに移動し、グループ替えを行った。
- ◇ 名前の氏と名の頭文字を使って自己紹介を行った（お似合いのイニシャル）。

2. 人権教育の4つの視点ミニレクチャー 15:34-[3]

- ◇ 人権教育の4つの視点について、板書などを基にファシリテーターが説明した。

- ① 人権としての教育（**as** Human rights）…教育を受けることそのものが人権であるというものである。
- ② 人権を通しての教育（**through** Human rights）…人権を尊重する方法を通じて行われる。
- ③ 人権についての教育（**about** Human rights）…人権問題について学習する。
- ④ 人権のための教育（**for** Human rights）…人権尊重を実現するためのスキルを獲得することをめざす。

3. 人権侵害はどこにある？～私たちの社会と人権 15:37-[17]

- ◇ 自分、身近なところ、日本、世界で起きている人権侵害をグループ内で話し合い、A4用紙に書き出した。
- ◇ A4用紙を回し読みして、他のグループのアイデアを共有した。

【自分、身近なところ、日本、世界で起きている人権侵害と思うこと】(抜粋)

いじめ、労働時間（過労）、虐待、ネグレクト、戦争・紛争、無視、〇〇ハラスメント、公害、メディア、妻の役割の強要、外国人差別、障害者差別、カースト制度、部落・同和問題、難民、児童ポルノ、人身売買、誘拐（拉致）、教育を受けられない、休みを取れない、男女差別、子どもの権利侵害、知る権利侵害

- ◇ Fコメント…「開発教育・国際理解教育のミッションは、課題を解決する主体を育成することである。そのためにはまず課題を認識することから始まる。人権問題では様々な場所で人権侵害が起きていることを知る。小学生では「世界人権宣言子ども版のリストを見て人権侵害が起きていると思うことを出す方法」、中学生は「新聞から人権が守られていること、人権が守られていないことをチェックする方法」で行う例がある」。
- ◇ 日本の人権の主要課題に関する資料を各自読んだ（3分間）。

4. 「わたし」から始まる人権…①お話の続きを作ろう 15:54-[28]

- ◇ 各自、4カ国（エチオピア、チャド、ペルー、ジンバブエ）の主人公が出てくるお話の出だしが書かれたシートを1種類選び、話の続きを考え、シートに加えた。
- ◇ 同じ国を担当した者同士で集まり、自分が考えたお話を伝えあった。
- ◇ 自分のチームはどんな系統の話だったか全体で発表した。
（明るいお話を作った人と暗いお話を作った人がいた。）
- ◇ お話のもとになった写真を見た。写真に近いお話が書けた人は？→5、6人。
- ◇ 各国チーム内で写真の解説を読み合わせ、ここまで行って感じたことを伝えあった。
- ◇ もとのグループに戻り、それぞれが担当した国の写真や解説について伝えあった。
- ◇ Fコメント…『「イメージと偏見」というアクティビティである。これまでの経験やどこから得た情報によって、アフリカのイメージ、女性のイメージなどを人それぞれが持っている。イメージを持つこと自体は悪いことではないが、それがあがる集団が不利益を被るようなイメージを持つことを『偏見』という。偏見が行動に表れると『差別』となる。』



5. 「わたし」から始まる人権…②人権啓発の移り変わり vs 無責任な第三者 16:22-[32]

- ◇ 痴漢防止ポスターの移り変わり（3種）に関する資料を各自見て、どこがどう変わったか、感じたことをグループ内で伝えあった後、全体で3人が発表した。
- ◇ Fコメント…「女性が気をつけなければならないという視点から痴漢する人が悪い、痴漢は犯罪であるという視点に移り変わっている。チカン・アカンという標語も屈辱的な体験をしている女性にとっては軽すぎる標語であった。痴漢はされる方が悪いのではなくする方が悪い。」



- ◇ 資料「誰にも言うんじゃないよ」（痴漢にあった高校生が家族に話した場面のお話）を読んで、グループ内で感じたことを紹介しあい、全体で発表した。

「少し昔のお話ではないか」「高校生のバックグラウンドが分からないとなんとも言えない」「勇気を出して家族に話したのに。せめて母親に共感されたり、しゃがみこんだことをほめることがあったらよかった」

- ◇ Fコメント…「自分がこの家族だった場合に、どう対処できるかを考えて、よりよい配慮が取れることが必要である。無責任な第三者の存在が、人権侵害を受けている人を傷つけたり、人権侵害社会を温存している。」
- ◇ 自分が資料のお話のように高校生から相談を受けた場合、どう対処するかを各自考え、グループ内で実際にロールプレイを行った。そのうち2例を全体で発表した。

「大変だったね。よく話してくれたね。ありがとう。もう大丈夫だよ。あなたの味方だから。一緒に心の安らぎ取り戻す方法を考えようね。ところで今どんなことに困っているのかなあ。よかったら教えてもらえるとうれしいな。」「よく勇気を出してくれて話してくれたね。辛い経験だったね。辛いね。その場で声が出なかったんだね。一緒に防犯ブザーを買いに行こう。」

- ◇ Fコメント…「正解はない。正解はないからこそ、ちゃんと考えたり、練習したり、よりベターをめざしてことでしかスキルを高められない。私たちの中にもあるかもしれない、気付かぬ「偏見」が差別を作り出す危険がある。無責任の第三者が人権侵害を放置してしまう危険がある。被害をさらに辛くさせる危険がある。そのため、わたしが人権を守るということは、自分自身にどう向き合うか、他の人にどう言ったり、関わることなのかを意識化して、実際にできるように習熟することが大切である。

★人権尊重社会を築くには -----

6. 人権尊重社会を表す形容（動）詞 16:54-[8]

- ◇ 人権尊重社会を表す肯定的な形容詞、形容動詞を8個各自考えてA4用紙に書き、グループ内で伝えあった。

【「人権尊重社会を表す形容詞・形容動詞」の成果例】

- ・寛容な、多様な、優しい、ゆっくりな、明るい、楽しい、認め合える、許せる
- ・自分らしくいられる、夢が持てる、安心できる、認めてくれる人がいる、話し合いで問題解決できる
- ・多角的に考えられる、気持ち・時間に余裕がある、自尊感情が持てる、「異」を理解し合う、注意し合える
- ・お腹が一杯になる、笑顔になれる、周りに人がいる、心が満たされる、安心できる、自信が持てる
- ・つながりのある、良い面を見る、共感できる、地球全体を考える、助け合える、応援できる

7. 人権尊重社会を実現するために役立つわたしの行動 17:02-[9]

- ◇ グループで共有した人権尊重社会を実現するために役立つわたしの行動を8個各自考えてA4用紙に書いた。
- ◇ グループ内でわたしの行動と今日の感想を伝えあった。

【「人権尊重社会を実現するための役立つわたしの行動」の成果例】

- ・勇気を出す、助ける、誰をも愛する、聴く、行動する、勉強する、教育する、いっぱい話す
- ・思いやりを持つ、受け入れる、優しさを持つ、豊かな心を持つ、許す、守る、認める、多様性を楽しむ
- ・違いを知る、違いを認める、他人の考えを尊重する、他人と積極的に関わる、想像する、偏見に気付く
- ・相手を理解する、自分の頭で考える、思いやりの心を持つ、自分を好きになる、共感する、信じる

<ファシリテーターからの提案>

- ・自分の中のステレオタイプをふりかえり見直す、差別は指摘する、少数派であることに自信を持つ、よく聴く、ありのままを受けとめる、多様なものを楽しむ、セルフエスティームを育て合う、誰とでも対等にいていねいに接する、否定ではなく質問する、批判ではなく提案する、学び合う、つながる
- ・つながる、自分の中にプラスの言葉を蓄える、想像する自分だったら…と、共感を言葉や態度に表す



★ 17:11 終了

● セッション3 「貧困と貧困解決を学ぶ～貧困は重大な人権侵害！」

★ 貧困の背景を考えよう

1. はじめに 10:00-[3]

◇ JICA中部木村職員が2日目の開催の挨拶を行った。愛知県推進員が挨拶した。

2. 1日目のふりかえり自己紹介 10:03-[5]

◇ 1日目で一番印象に残ったことを昨夜寝た時間順にグループ内で伝え合い、自己紹介代わりとした。

3. 貧困が続く影響や結末を考える 10:08-[14]

- ◇ 貧困になるとどんなことが起きるかグループ内で派生的に考え、模造紙に書き出した。
- ◇ グループ内で分担して他のグループのアイデアを見て回り、最悪の結果だと思う結末にドクロマークをつけ、自分のグループにないアイデアを持ち帰った。
- ◇ グループ内で持ち帰ったアイデアを伝え合った。



【「貧困になるとどんなことが起きるか」派生図の成果例】



◇ Fコメント…「貧困は普段イメージしないかもしれないが、その影響や結末を想像することで理解が進む。もしも自分が貧困だったらと想像してみるとよい。貧困の最悪の結末は人の死である。それは重大な人権侵害であり、解決しなくてはいけない問題である。」

4. 貧困の悪循環 10:22-[8]

- ◇ 貧困になるとどんな連鎖が起きるか、その悪影響に関する8枚のカードの順番をグループ内で考えた。
- ◇ 2つのグループが、全体で貧困の悪循環のパターンを発表した。

- ・ 貧困→不十分な収入→食事が取れない→栄養不良→病気になる→学校行けない→職業技術なし→失業→貧困
- ・ 貧困→食事が取れない→栄養不良→病気になる→学校行けない→職業技術なし→失業→不十分な収入→貧困

◇ Fコメント…「貧困の特徴としては、ひとたび貧困に陥ると抜け出せなくなる＝悪循環となることを学ぶアクティビティである。」

5. なぜ貧困になるのだろうか？～フォトランゲージ 10:30-[11]

- ◇ 5種類の飢餓に関する写真とその解説をグループ内で分担して読み、自分が担当した写真の飢餓の状況や原因について伝え合った。
- ◇ Fコメント…「写真に出てきた飢餓の原因としては、戦争、紛争、教育不足、障害、差別、女性軽視、失業、現状に合わない法律、災害、干ばつ、シングルマザー、孤児などがある。この中には日本にも当てはまることも多くある。この中にはない貧困の原因として“構造的貧困”がある。」



6. 地球データマップ「飢える国、飽食の国」視聴 10:41-[25]

- ◇ 構造的貧困を理解することに役立つ映像を視聴した。
- ◇ グループ内で視聴した感想を伝え合った。

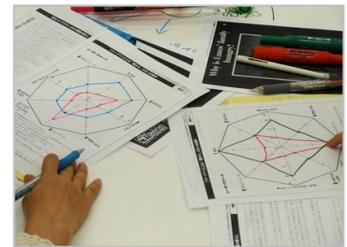


7. 20世紀型開発の光と陰と新しい開発と貧困の定義 11:06-[7]

- ◇ 導入コメント…経済至上主義のもと、より儲けるためには安く原料を買い高く売るといって成長してきた世界経済と先進国。その光の影で構造的に貧困に陥った開発途上国がある。構造的な貧困であれば、その構造を変えれば貧困解決につながる。そのためには「開発」を経済的な指標だけにはかかるとはならず、家族、コミュニティ、心の豊かさ等の指標を加え、総合的な視点から開発のあり方を変えていく必要がある。」
- ◇ 「開発」の捉え方について世界の現状に画期的な方向転換を迫った2人の学者（ジョン・フリードマン、アマルティヤ・セン）の考え方が書かれた資料を各自読んだ。

8. バングラデシュと日本の家族の8つの開発指標比較 11:13-[19]

- ◇ 各自、バングラデシュのラーマンさんと日本の山田さんのそれぞれの家族の状況が書かれた文章を読み、それぞれの家族について8つの開発指標がどのレベルにあるか考え、レーダーチャートに書き込んだ。
- ◇ 2つの家族を比較した開発指標のレーダーチャートをグループ内で伝えつつ、気付いたこと、感じたことを共有した。
- ◇ Fコメント…「日本の家族の方が全体として指標は高くなっているかもしれないが、部分的にみるとバングラデシュの方が高いとした指標もある。「開発」は、多面的に見ていく必要がある。フリードマンの貧困の定義では、「貧困＝お金がない」ということではない。必要なもの（教育、意思決定、所得、健康と安全、ネットワーク、持続可能な環境、ゆとりある空間・時間、文化・ジェンダー）にアクセスできないことである。



★ 貧困の悪循環から脱するための多様な手立て -----

9. ムハンマドさん一家を救え 11:32-[13]

- ◇ モロッコのムハンマドさん一家の経済的に問題が生じた状況が書かれた資料を各自読み、グループメンバーがムハンマド一家だとしたら、どのようにその問題を解決するかグループ内で考えた。
- ◇ グループで考えたアイデアを2つのチームが全体で発表した。

【ムハンマド一家を救う方法 発表内容】

- ・学校が終わったあと子どもたちが内職をする。 ・農業以外の収入を得られるように努力する。
- ・お金を借りる（政府の援助）。 ・お金を借りて山羊を飼い、ミルクを売って生計を立てる。
- ・周辺で女性とグループを作り、お金のかからない材料をもとに小物を作り、売る。

- ◇ 実際にムハンマドさん一家を救った方法と、その中核をなしたマイクロクレジットについて書かれた資料を読んだ。

10. 貧困の悪循環を断ち切るために必要なもの 11:45-[16]

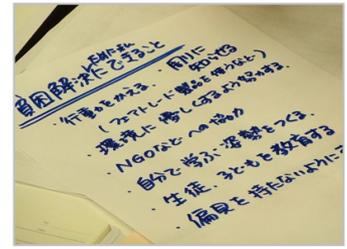
- ◇ 先の「貧困の悪循環」の成果物を見ながら、悪循環を断ち切るために必要なことをグループ内で考えた。
- ◇ さらに、飢餓に関する写真と解決にあった原因を取り除く方法という視点で考え、付け足した。
- ◇ 最も多く書き出したグループが最初に全体で発表し、その後他のグループメンバーがポップコーン方式で付け足し発表した。

【貧困の悪循環を断ち切るために役立つこと・必要なもの】

技術、ネットワーク、知識、情報、クリエイティビティ、医療支援、教育、コミュニティづくり、人材育成、現地スタッフの育成、インターネット、エネルギーの再利用、正しい情報と情報を読み解く力、家族計画、教育無償化、古い習慣からの脱却、NGOなど、家族の仲、固定観念を捨てる、一歩踏み出す勇気、仕事、希望、まわりからの理解、紛争解決、やりがい、オカンヤラントアカン・オカンだけじゃアカン、ガバナンス、インフラ整備、フェアトレード、食糧支援、多文化理解の啓発、マイクロクレジット、イマジネーション、富の再分配などのシステム、周囲の人の関心、職業技術訓練、折れない心、ピンチはチャンス、ひらめき、適切な対価、自立した主要産業、現場に寄りそった支援

1 1. 貧困解決のためにわたしにできること 12:01-[11]

- ◇ 貧困解決のために自分にできることを各自A4用紙に7つ書き出し、グループ内で伝え合った。
- ◇ わたしにできることの参考として、貧困の状況・段階に応じた援助のあり方について書かれた資料「バングラデシュを救う9つの方法/援助のはしご」、仕事づくりや適正な労働対価という視点で書かれた資料「フェアトレード/ビッグイシュー」を配付した。



【「貧困解決のためにわたしにできること」の成果例】

- ・ フェアトレード商品をできるだけ買う、穀物大量消費により育てられた牛肉を食べない、マイクロクレジットを行っているようなNGOを支援する、今日学んだことを生徒に伝える
- ・ 関心を持つ、周りに伝えていく、学び続ける、発想力を鍛える、貧困の構造を見いだす目を持つ
- ・ 行動を変える（フェアトレード製品を使うなど）、周りに知らせる、環境に優しくするよう努力する、NGOなどへの協力、自分で学ぶ姿勢を作る、生徒・子どもを教育する、偏見を持たないようにする

- 休憩 - 12:12-[59]

1 2. JICA TIME 13:11-[22]

- ◇ JICA 酒井調整員が、パワーポイント資料を基に、次のことについて説明した。

- ・ 貧困の悪循環を断ち切る国際協力とJICAの活動
- ・ ラオスにおける教育面でのプロジェクト事例
- ・ ガーナにおける食糧不足面でのプロジェクト事例
- ・ JICAのビジョン「Inclusive and Dynamic Development」の考え方
- ・ 各セクターとのパートナーシップによる国際協力
- ・ ミレニアム開発目標 MDGs



- ◇ 資料「バングラデシュを救う9つの方法/援助のはしご」について、ファシリテーターが補足説明した。

● セッション4 「持続可能な未来のために環境を学ぶ」

★ 環境について学ぶ～環境問題どんな問題？なんで問題？ -----

1. グループ替えと自己紹介 13:33-[9]

- ◇ 1～9までの番号を振り、同じ番号の人とグループになった。
- ◇ 「自分がしている環境に良いこと、悪いこと2つずつ」を呼ばれたい名前の頭文字逆順にグループ内で伝え合った。

2. 地球環境クイズ 13:42-[29]

- ◇ 各自、「生物」「エネルギー」「資源・ごみ」「食べ物」の4つのテーマに関するクイズに答え、解説およびテーマに関わる問題の背景が書かれた資料を読んだ。
- ◇ クイズの問題とその答え、資料を読んで「わかったこと、いえること」「最も印象に残ったところや数字」をグループ内で伝え合った。



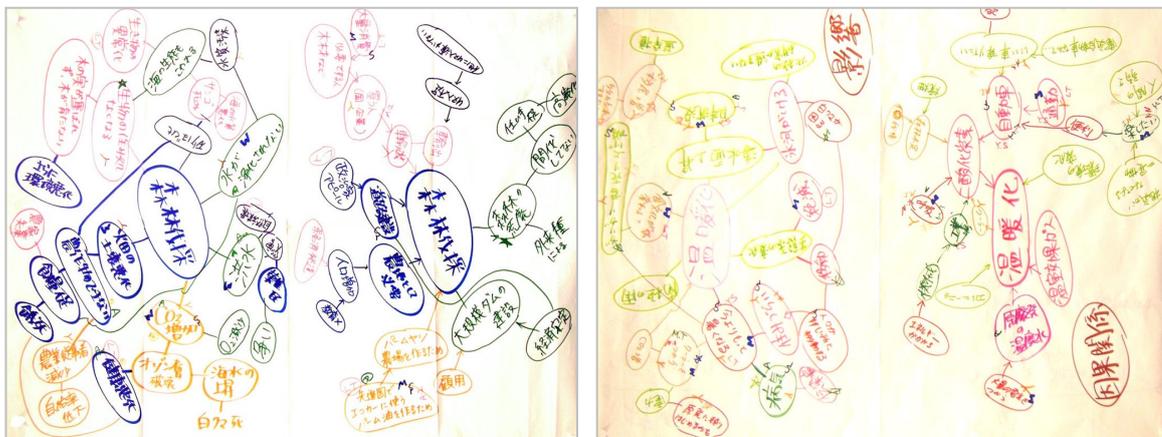
3. 個別環境課題の影響と原因とわたしの関係！？ 14:11-[21]

- ◇ 個別環境課題として「地球温暖化」「生物の絶滅」「森林伐採」「大量生産・大量消費・大量廃棄」の4つのテーマのうち割り当てられた1つのテーマについて、もしその問題が解決しなかったらどんなことが起きるか（影響）をグループ内で派生的に考え、模造紙にまとめた。
- ◇ 同じテーマのグループ間で模造紙を回し読みして、アイデアを共有した。
- ◇ 担当したテーマの個別環境課題が起きている原因だと思ふことを、グループ内で逆因果関係的に考え、模造紙にまとめた。



- ◇ 自分に及ぶと思う影響、自分が加担していると思う原因に、自分のイニシャルをつけた。
- ◇ 同じテーマのグループ間で模造紙を回し読みして、アイデアを共有した。

【個別環境課題の影響と原因の派生図/逆因果関係図の成果例】



- ◇ やってみて気付いたこと、わかったことを全体で3人が発表した。

- ・影響も原因もどこかで自分に関係していることがわかった。
- ・便性など人間の欲に関わっていることがわかった。 ・結局悪いのは人間だと行き着いた。

★ 環境のために学ぶ～1人の100歩<100人の1歩で変わる未来！ -----

4. 持続不可能なところ/持続不可能にしている原因 14:32-[12]

- ◇ 私たちの社会をふりかえり、持続不可能だと思うところとその原因をグループ内で考え、対比表にまとめた。
- ◇ グループ内で分担して他のグループのアイデアを見て回り、自分のグループにないアイデア☆印をつけ、持ち帰る。

持続不可能	原因
・水、食料	・人口爆発
・化石燃料	・資源枯かつ ・経済発展
・生態系	・環境破壊
・地球	・人
・東京など大都市	・地震、ストレス
・人類	・第三次世界大戦

【私たちの社会の持続不可能だと思うところ】(抜粋)

水、食糧、化石燃料、生態系、森林、ごみの埋め立て、東京などの大都市、地球、人類、核エネルギー、宅地化、自動車（ガソリン）、空気、化学物質による汚染、農産物、地球温暖化（二酸化炭素）、土地開発、地下水、今の生活水準、焼畑・プランテーション、自然破壊

【その原因】(抜粋)

人口爆発、環境破壊、人、ストレス、戦争、経済発展、リサイクルできないものを作っている、安さを求める大量のエネルギーを必要としている（便利さ、快適さ）、楽をしたいという気持ち、人の欲、利益追求、代替エネルギーのコスト、必要以上の消費、人間の向上心、石油に依存した生活、大量生産・大量消費、開発、危機感のなさ（自分たちは大丈夫）、技術の進歩（回転が速い）

- ◇ 持ち帰ったアイデアをグループ内で伝え合い、模造紙に書き加えた。

5. 持続可能な環境を築くためのヒント～ミニレクチャー 14:44-[7]

- ◇ 導入コメント…「どこに持続不可能かということ、その原因は何かということがわかっていることが持続可能な環境を築くために大切である。」
- ◇ 持続可能な環境を築くためのヒントとして配付資料を基に、「物質循環」「生物多様性」「有限性」「低炭素」の4つのポイントについてファシリテーターが説明した。

6. 持続可能な未来のためにわたしができること 14:51-[7]

- ◇ 持続可能な未来のために自分にできることを肯定的な表現で各自A4用紙に7つ書き出した。

【「持続可能な未来のためにわたしができること」の成果例】

- ・ 生ゴミが減るように食べる、エコバッグを持ち歩く、着る服で温度調節
- 旬の食材を使う食べる、環境問題を自分のこととして真剣に考える、エコカー購入、国産のものを買う
- ・ 「まだ大丈夫」というまやかしかから目覚める、知る→気付く→学ぶ→定着、足を知る、他人を巻き込む
- ・ リサイクル、地産地消、スローライフ、子どもへの伝達、学校全体での実施、できるだけ歩く
- ・ ロハスな生活、自給自足、思いやる心、ウォーキング、感謝の気持ちを持つ、余剰購入を避ける、伝える



7. 全体ふりかえり 14:58-[12]

- ◇ Fコメント…「今回行ったプログラムは、開発教育・国際理解教育の理念や考え方、参加型の手法について理解してもらうために行っている。そのため、例えば小学校の児童向けにはそのまま使えないかもしれないが、対象に応じてアレンジしたり、応用したりすることで生かしてほしい。」
- ◇ 第2回研修をふりかえり、①気付いたこと・わかったこと、②もっと知りたいこと、③実践に生かそうと思ったことを各自A4用紙に書いた。
- ◇ 持続可能な未来のためにわたしができること7つの中から2つと、第2回研修の感想をグループ内で伝え合った。

8. 事務連絡 15:10-[5]

- ◇ 連絡事項（ふりかえりシート、二次配布禁止資料、成果物の共有、第3回研修の終了時間）を事務局が伝えた。
- ◇ 今後JICAで行う開発教育・国際理解教育のイベントを紹介した。

★ 15:15 終了